

授業科目名	人間教育学ゼミナール（基礎）(2100309)		
時間割名	人間教育学ゼミナール（基礎）(35104)		
時間割担当	岡野聡子		
実施期	通年	単位数	4 選択
曜日・時限	水・5		

授業の目標・概要

人間教育学として、自らが深めていきたい専門領域を決め、基礎科目ゼミナールで身につけたアカデミックスキルを駆使し、専門分野の文献や論文によって見識を深めていきます。必要に応じて、実習や地域交流などを行い、主体的に自らの専門性を深めていきます。

本ゼミナールでは、質的研究の方法について、実践を交えて講義をします。調査研究をする際に必要な準備から質的研究の主な技法（フィールドワーク、聞き取り調査、インタビュー調査）、調査ノートの取り方および研究成果のまとめ方を学びます。また、学生に応じて、海外調査に向く際の準備や必要事項についても教えます。

学習の到達目標

1. インタビューデータの収集方法・分析手法を学び、得られたデータを考察することができる。
2. 卒論執筆者】得られたデータを集め、各データについて、それぞれ1000字程度のレポートを書くことができる。
3. プロジェクト実施者】各プロジェクトの目標を定め、計画書を書くことができる。

授業方法・形式

1. 授業の前半は、講義形式で質的研究法について学びます。
2. 授業の後半は、各自フィールドに出向いて、研究手法を磨きます。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション
授業の目的および内容の説明、成績評価について説明します。
- 第2回 質的研究法とは何か
研究とは何かについて説明し、質的研究法について解説します。
- 第3回 フィールドワークの技法 フィールドワークとは何か
事例をもとに、フィールドワークの価値について解説します。
- 第4回 フィールドワークの技法 インタビュー調査におけるデータ収集の手法
インタビュー調査の技法について解説します。
- 第5回～第6回 フィールドワークの技法 インタビューデータの収集
インタビュー調査に出向き、データ収集を行う。得られたデータを書き起こす作業を行う。
- 第7回～第8回 フィールドワークの技法 インタビューデータの分析手法
文書セグメントを作成し、カテゴリーを生成するまでの手法、カテゴリー間の関係性を考察します。
- 第9回～第13回 フィールドワーク調査の実践【 】
各人、フィールド調査に出かけ、インタビューデータの収集から分析を行う。
- 第14回 成果報告会の準備
各人、これまでの成果を報告する準備を行う。
- 第15回 成果報告会【 】
得られた成果を発表する。
- 第16回 オリエンテーション
授業の目的および内容の説明、成績評価について説明します。
- 第17回～第27回 フィールドワーク調査の実践【 】
各人、フィールド調査の結果から、各プロジェクトの計画案を作成する。
- 第28回～第29回 成果報告会の準備
各人、これまでの成果を報告する準備を行う。
- 第30回 成果報告会【 】
得られた成果を発表する。

成績評価の基準

1. 毎回の振り返りシートの記入（50％）
2. 卒論執筆者）1000字レポートの作成（50％）、プロジェクト実施者）プロジェクトの計画書の提出（50％）

授業時間外の課題

適宜、授業内にて指示する。

メッセージ

3年生は、小学校の教育実習に出向きます。その際、1日の学びの成果を実習簿に書く必要がありますが、「何を書けばいいの？」や「どう書いたらいいの？」という質問をする学生が多くなります。また、記録をする際にも、記録方法がわからない、実習簿も単なる感想に終わっていることが多く、分析的記述まで到達することができていないと思われます。私のゼミでは、記述する力を磨き、物事の見方や考え方、観察する視点を養いたいと考えています。また、プロジェクト形式の授業に参加をする者は、三郷町のまちづくり講座に参加をし、まちの発展に寄与するプロジェクトを計画・運営実施してもらいます。事業計画書の立案から実際の運営、町民との合意形成、プレゼンテーションスキルを磨き、他者と協働して物事を進める力を涵養したく思っています。

教材・教科書

特になし。

参考書

適宜、授業内にて指示する。